

連続オンラインセミナー

甘いバナナの 苦い現実



【第1回】
10月2日(金)19時~21時

- フィリピンにおける輸出用バナナ生産の歴史
- 毒の雨にむしばまれるバナナ農園

フィリピンにおける輸出用バナナ生産の歴史
— 農薬禍の解決にからむ複雑な現実

報告者：石井正子（立教大学）

前座

1. 歴史

—1980年代後半：高地栽培バナナの展開と農薬禍

2. 40年以上も続いてきた農薬禍

—わたしたちが食べるバナナの生産現場で

3. 農薬禍の解決にからむ複雑な現実

3-1. 高地栽培バナナ×山間部の先住民

3-2. 政治力（暴力手段）をもつアグリビジネス
VS生産者

3-3. 生産者VS生産者

高地栽培バナナ（第6章, p325）



<http://www.freshdelmonte.co.jp/banana.html>



<https://item.rakuten.co.jp/ookiniya/saibana5p/>



https://www.sumifru-shop.jp/fs/sumifru/sumifru-products/detail_k_premium_2



<https://www.dole.co.jp/brand/gokusen/>



<http://www.royal-jp.com/products/banana-miyabi-g.html>

生産・輸出業者：ラパンダイ

1. 歴史：高地栽培バナナの展開と農薬禍（第2章2, 第4章）

- 1963年：日本、バナナの輸入自由化
- ドール、ユナイテッド・ブランズ（チキータ）、デルモンテ、ダバオ・フルーツ（住友商事出資）、生産開始
- ダバオ・フルーツ（住友商事出資）
 - 低地での土地確保に出遅れる
 - ダバオ市の山間部カリナン地区に農地をリース
 - 1980年代末にこの農園で高地栽培バナナ「発見」
 - 各社、山間部でのバナナ栽培拡大
- 山間部での農薬散布→深刻な農薬禍

2. 40年以上も続いてきた農薬禍

- 鶴見良行『バナナと日本人』（岩波新書、1982年, pp179-190）
- 中村洋子『フィリピンバナナのその後』（七つ森書館、2006年, 第1章）
 - 呼吸器系疾患、アレルギー疾患、皮膚炎
 - 空中散布に対する強い不満
 - 毒性の強い農薬使用、第三世界への輸出
- 不妊症の原因**DBCP**（映画『バナナの逆襲』）
 - 1979年製造中止、1980年フィリピンで使用禁止
 - しかし、1986年までフィリピンのドール系バナナ園で使用

3-1. 農薬禍の解決を むずかしくしている複雑な現実

高地栽培バナナ

×

山間部の先住民

深刻な貧困問題

教育水準が低い

バナナ園が貴重な現金収入源

ミンダナオで「高地」とは？
誰が住んでいる？

フィリピン南部の 3つの人びと(文化集団)

- バンサモロ(マギンダナオ人)
 - ◆ イスラム化した先住民
 - ◆ 13民族言語集団

- 非バンサモロ(ティドゥライ人)
 - ◆ イスラム化しなかった先住民
 - ◆ 18民族言語集団

- クリスチャン
 - ◆ 数十の民族言語集団

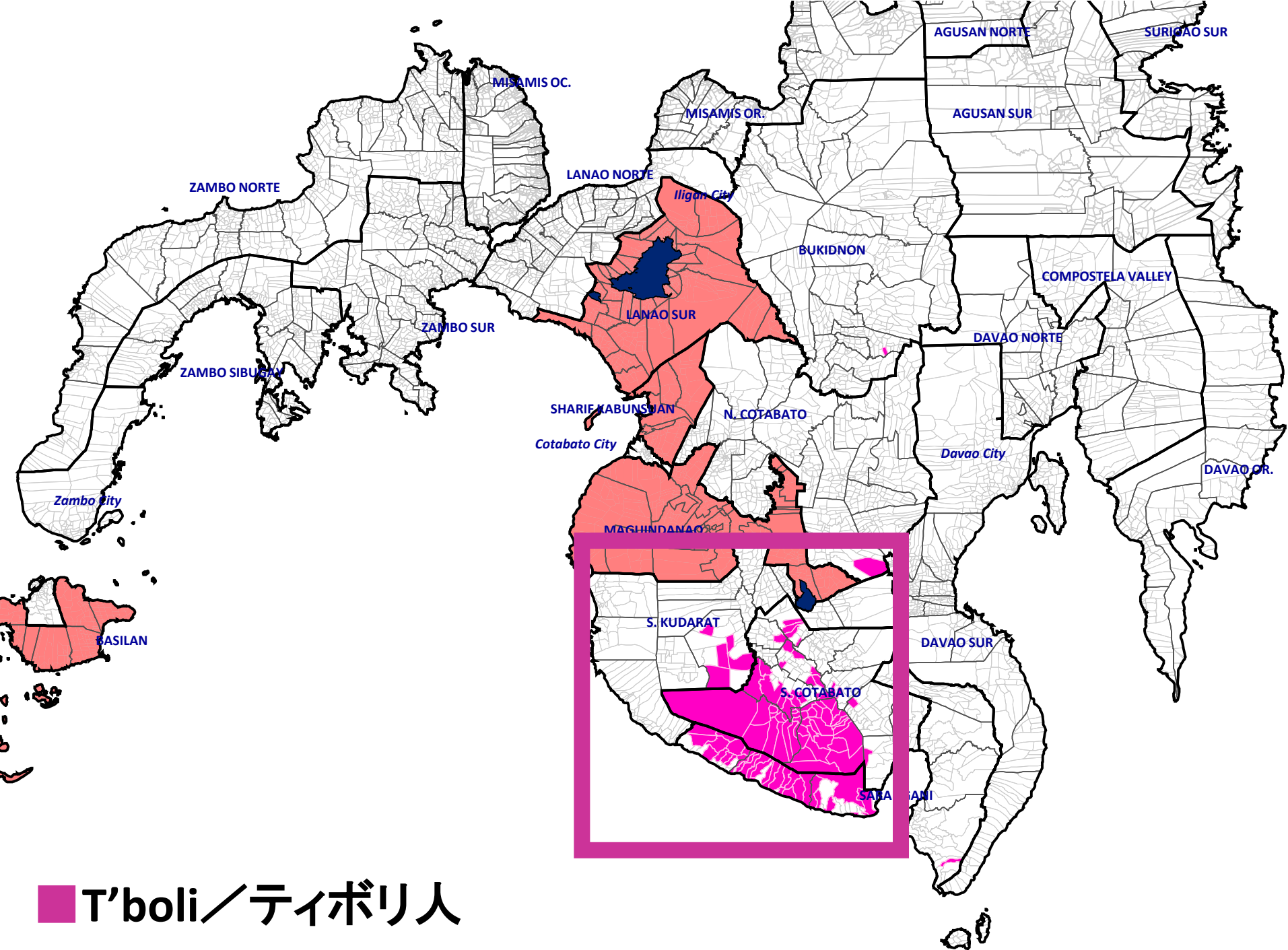


よく使われるイメージ



概念图

https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9F%E3%83%B3%E3%83%80%E3%83%8A%E3%82%AA%E5%B3%B6#/media/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:Ph_physical_map.png







2.6



2.7



出典 : Roy, W. Hamilton,
edited. From the Rainbow's
Varied Hue: Textiles of the
Southern Philippines. UCLA
Fowler Museum of Cultural
History, 1998.



日本に輸出される
高地栽培バナナと
空中農薬散布の問題





ロミ・キハーノさん
(元フィリピン大学医学部教授)

マニラからたびたび
ミンダナオ島に通って——



農薬による健康被害



皮膚障害



失明

DVD
「甘いバナナの苦い現実」
(村上良太監督／制作：PARC)

3-2. 農薬禍の解決を むずかしくしている複雑な現実

政治力(暴力手段)をもつ
アグリビジネス
VS
生産者

例：ラパンダイ農園

- オーナー
 - ロレンソ財閥
- ルイス・“チト”・ロレンソ・ジュニア
 - 農業省長官(2002.12-2004.8)：アロヨ政権時代
- 顧問弁護士
 - サラ・ドゥテルテ(ダバオ市長)の夫

ラパンダイ農園での農薬禍

- 1997年：キハノ博士らがラパンダイ農園（カムクハーン）で農薬禍の調査。2000年に報告書作成。
- 2000年：ラパンダイ、キハノ博士らを名誉棄損で刑事告発
- 2002年：ラパンダイ、キハノ博士らに対して民事訴訟
- 2003年：キハノ氏、逮捕
- 2007年：地域裁判所、キハノ氏に対するすべての訴訟を棄却
- 2015年：カムクハーンの住民が専門職規制委員会に対し、キハノ氏がウソを広めたと供述書を提出。キハノ氏、PBGEA（フィリピンバナナ栽培者・輸出業者協会）のハラスメントの存在を訴える

3-3. 農薬禍の解決を むずかしくしている複雑な現実③

生産者

VS

生産者

生産者の分断

空中散布反対のデモ、マニラ市
(2009年9月4日、IDIS撮影、第4章2)

- 分断される農薬反対運動(第4章2)
 - 科学的根拠で安全を主張する輸出業者
 - 空中散布反対運動に反対する運動



- 自立の道を歩むチェックカード農園(第2章1)
 - 農薬の空中散布を実施
 - 「しっかり管理していれば農薬禍に見舞われることはない」

Yes to Aerial Spray

By MINDANEWS - SEPTEMBER 12, 2013 5:00 PM

空中散布賛成のデモ、
2013年9月、パナボ市)



<https://www.mindanews.com/photo-of-the-day/2013/09/yes-to-aerial-spray/>

まとめにかえて

- 確かに存在する農薬散布（特に空散）の被害：他者の犠牲のうえに成り立っている私たちのバナナ
- 農薬禍の解決にからむ複雑な現実
- アグリビジネスによる低農薬・無農薬バナナ栽培は解決への一歩なのか？

引用文献

- Nikol, Lisette J. and Jansen, Kees. 2018. The Politics of Counter-Expertise on Aerial Spraying: Timeline of Selected Developments in the Philippine Civil Society Struggles Around Risk Regulation, 1997 – 2016. Rural Sociology Group.
DOI: <https://doi.org/10.18174/442444>